

一般質問

町の考えを問う！



一般質問は、議員が町政全般について現状や方針を問うものです。

一人当たりの持ち時間は答弁を含めて 50 分です。

掲載している内容は、質問者自身が要約し、広報広聴特別委員会が校正したものです。

一般質問の映像を議会のホームページのほか、

YouTube でも画像を配信しております。

また、会議録もホームページでご覧いただけます。

画像配信は
こちらから



会議録は
こちらから



五十嵐一夫 議員

庁舎移転懇談会のあり方 周知不足との指摘を受けており ます

問

庁舎移転懇談会開催に先立ち、庁舎移転の議案提出を宣言していた。これでは懇談し意見を聞く場ではなく、説明会である。また、開催を知らない人が多い、周知不足でないか。

答

懇談会での町民の意見を聞き、提案時期は再考しました。また、周知が不足しているとの意見がありました。多くの町民に参加いただけるよう努めます。

問

配置計画等は、現庁舎周辺は劣位を強調、厚生病院跡地は優位性を強調、計画の比較が非公正・不公平であり、厚生病院跡地に誘導的でないか。

答

優位性や劣位性を強調する意見はなく、町民の方々の意見を聞き、比較・分析していきます。

問

厚生病院跡地に移転すると、固定資産税収入が失われる。庁舎が移転しないで企業・施設が誘致されれば、さらに固定資産税収入増が見込める。税額と見解を求める。

答

固定資産税収入は年約360万円くらいです。企業が誘致されれば税収増は見込めます。まちづくりを考えていくうえで重要な土地であると認識しています。

只見線全線開通後の課題

自治体・商工団体等と連携が不可欠

問

町は只見線とどう向き合っていくのか、利用の増加を図り町活性に効果を高める取り組みは。

答

まちなかガイドと連携した「会津ばんげ町歩き」、JR東日本との共同企画「駅長オススメのちいさな旅」、来年の春日八郎生誕100周年記念事業など、銅像が建つ会津坂下駅をPRし知名度を高めていきます。利用促進・活性化につながる取り組みを進めていきます。



会津坂下駅を奥会津の玄関口にできないだろうか



横山 智代 議員

「家族農業」と「アグロエコロジ」の実践を

持続可能な農業確立のために、その有効性等を発信、推進して参ります

問 町の「家族農業」と「アグロエコロジ」の実践を広げて行くべきではないか。

答 国内の家族農業の割合は約96%であることから、その役割が重視されており、活性化を図るための様々な施策が展開されています。

町では家族農業を経営面積5ha未満の中小規模の農業経営と定義しています。家族農業は農業経営形態において約87%を占めており、町内の全農地面積の約45%を耕作しておりますが、家族農業に対する町の支援は十分とは言えません。今後、課題や要望等をお聞きし、国県の事業の活用、町独自の支援についても検討しながら家族農業を支えて参ります。

アグロエコロジは化学肥料や農薬に頼らず、生態系や農地が持つ本来の生物多様性を活用した農法で、化学肥料・農薬の使用を5割以上低減した環境保全型農業を町で2団体31名の農業者が取り組んでいます。町として、持続可能な農業確立のため

めに、その有効性等を発信、推進して参ります。

学校給食を無償化に

現時点で無償化又は一部補助を行う考えはありません

問 学校給食を無償化又は一部補助は行わないのか。

答 食糧材料費のみを食費としてご負担いただいております。光熱費等施設や設備の維持管理費、人件費等は町が負担しております。現時点で無償化又は一部補助を行う考えはありません。政府の「給食費の無償化」や「児童手当の拡充」などの動向も重視して参ります。

これも質問

関係5類移行後のコロナ対策について伺う



蓮沼 文明 議員

要配慮者用防災マップを早急に作成・配布すべきではないか

関係部署や要配慮者のご家族等と話し合い、早急に作成してまいります

問 本町の防災マップは、福祉避難所の健康管理センターをはじめとする障がい者等に向けての情報案内が欠落している。災害時での混乱を未然に防ぐため、障がい者等の要配慮者用防災マップを早急に作成し、配布すべきであると考えているが町の見解を伺う。

答 現在本町の福祉避難所は、町健康管理センターをはじめとして、「介護老人保健施設なごみ・ケアプラザ坂下・シルクケア坂下・こばんげホーム・ケアホームつばみ・デイサービスなのき坂下」の7避難所があります。障がい者等の要配慮者用の防災マップは必要であると認識しておりますので、生活課の関係部署や要配慮者等のご家族等と話し合い、早急に作成してまいります。



健康管理センターに設置された看板

町民プールで障がい者の利用は
監視者同伴の条件付きで利用可能となっております

問 現在、インクルーシブ施設の観点において、障がい者の町民プール利用について伺う。

答 町民プール建設当時は、障がい者等の施設利用に配慮したインクルーシブ的な考えはございませんでしたが、時代の変化やニーズの多様性により、分け隔てなく誰もが利用できる施設でなければならないと考えております。

障がい者等の町民プール利用につきましては、監視者同伴の条件付きとはなりますが、ご利用可能となっております。

これも質問

関係町の観光案内板の内容見直し及び今後の修繕計画等を伺う。
関係空き家を有効利用し、障がい者等の「居場所づくり」への活用を。
関係ばんげがし公園「流れるプール」フロア面の修繕工事計画は。



目黒 克博 議員

街なか賑わい創出について 新たな発想で住民が求める様々な事業を検討します

問 賑わい創出のための空き店舗活用の具体的な取組みを伺う。

答 中心市街地に人を取り戻し賑わいを創出するには、空き家店舗の利活用促進が課題であると認識しております。家賃補助の実施だけでなく、事業主が新規事業にチャレンジするための資金調達法に非常に有効な「クラウドファンディング」の制度の周知に努めます。熱意とアイデアをもった事業主を支援し、中心市街地の活性化に繋がってまいります。

問 企業誘致について、町の強みを活かしたアプローチをどう推進するか。

答 強みはアクセスの良さと考えております。業者の方々に遊休施設の状態、街並み等を実際にご覧いただく取組みを進めてまいります。また一方的な情報発信だけではなく、事業者が求める条件等をより多く聴取し、整備をすることが必要であると考えており、福島県等と連携を図り、個別に丁寧な対応をしてまいります。

高齢者雇用のサポートについて問う

シルバー人材センターの活用をサポートしています

問 高齢者の生き方を町がサポートすることの考えを問う。

答 高齢者の社会参加による介護予防や生きがいづくり、地域での見守りにより孤独化を防ぐ取組みを進めます。

就労を希望される方の受け皿として、シルバー人材センターの活用があります。就労のみでなく、元気な方にはサロンやボランティアなどの地域の担い手として、やりがいや生きがいを持つことで健康維持に繋がります。介護サービスや医療受診が必要な方には、サロンへの参加による介護予防、地域包括ケアシステムによる適切なサービスの提供に取り組んでいます。

高齢者が住み慣れた地域で生活が続けられるようサポートをしてまいります。



小畑 博司 議員

あらゆる「ごみ」を資源にしよう 調査・研究を継続していきます

問 会津西部の中核都市として、近隣町村と連携し、生ごみやし尿、下水道の汚泥、合併浄化槽の汚泥などを活用してバイオマス発電事業や、自前の肥料を生み出す事業の展開を実現できないか。

また、ある国内企業は、廃タイヤやリチウム電池、廃ビニール、梅のたね、生ゴミなどを超高温で分解して高機能炭を創りだす装置を開発し、実用化している。是非ともわが町でも活用できないか。

答 バイオマス発電事業につきましては、地域の特性や規模により様々な課題があり、且つ採算性



の確保なども重要なので、調査・研究を継続していきます。

ICT教育のデメリットは何か

健康面への影響について留意する必要があります

問 小中学生の全員にタブレットが配備されるなど、ICTが教育に活用されていますが、利便性とともに弊害も懸念されている。健康面も含めた懸念とは何か。その対策はどのように取られているのか。

答 デモリットの懸念材料として、タブレットだけではなく、IT機器の長時間の使用によるドライアイや視力の低下、睡眠の質の低下、記憶力や意欲の低下など健康面への影響があり、留意する必要があります。

これも質問

心安心・安全な食糧生産を町民の力で継続・発展させよう。



将来のまちづくりを
どう描く？
「ばんげキャンパス」
(7地区)

問 新庁舎建設地検討の中で、「あたらしいまちづくり元年」を示したが、具体的にはどのようなことか。そのビジョンは、住民に何をもたらすか。

答 現状を分析し、20年後、30年後も将来にわたり住み続けたいと思えるまちにするため、変える勇氣をもってまちづくりをすすめることとする。

具体的には、町が持続的に発展していくための新たな視点でのまちづくりのビジョンを描く、転換期の年であるという思いの言葉です。計画の策定には多くのの方の考えを反映させ、将来に渡って発展し、住民が夢と希望がもてるものにしてまいります。



渡部 正司 議員

「あたらしいまちづくり」とは
変える勇氣をもってすすめること
とです

問 障がい者の投票支援は
安心して投票できる環境を整
備します

答 障がいがあるからといって投票を諦めたり、投票ができにくいことはあってはならない。投票弱者への選挙支援の課題と対策はどうか。

問 障がいや高齢のために投票することが難しい方々への支援は、十分ではないと認識しています。選挙広報の点字版、防災無線を活用した音声案内について検討します。投票所へのスロープや手すり、車いす等が必要と考えています。

郵便投票や代理投票の制度の周知方法を再考し、選挙時だけでなく常時より広報紙への特集記事、SNS発信等、制度を理解いただける工夫を行ってまいります。



佐藤 宗太 議員

外郭団体の考え方は
住民ニーズの多様化に対応する
ため重要なパートナーです

問 外郭団体の課題は

答 外郭団体においても少子高齢化や過疎に伴う担い手不足や、人口減少による活動量の減少により、今後は外郭団体が単体で存続していくことが困難になることも予想されます。

町では、各団体が統合することも選択肢の一つであると考えております。統合することで、給料や雇用条件が標準化し人材不足の解消につながるだけでなく、多様化する住民ニーズにも対応できる等、より効果的なサービスを提供するためのパートナーとして、その活動を継続できると考えております。



問 障がい者支援の現状は

答 障がい者手帳の交付状況は、身体障がい者手帳が713人、療育手帳が124人、精神障がい者保健福祉手帳が137人となっております。

問 障がい者支援の考え方は

答 当事者や家族の参画による意見交換の場や、福祉の取り組みなどの情報発信を推進し、地域全体で支え合う仕組みづくりを実施してまいります。

これも質問
問今後のごみ処理の考え方は
問広域ごみ処理施設の当町の負担金と歳出計画は



酒井 育子 議員

町長の政治姿勢について問う 中心市街地活性化、グランドデザイン等を総合して進めます

問 新庁舎建設場所を旧厚生病院跡地を強力に進める根拠とは。財政に一筋の明かりが見えてきたとはいえ、町民の声の大きさに対し、議長時代を振り返り、評価と意見を問う。

答 新庁舎の場所のみが先行し、町が二分しているこのままの状態を進めては「新しいまちづくり」を実現できないと考えました。今後は中心市街地活性化や全体的なまちづくりのグランドデザインを総合して進め、「新しいまちづくり」のビジョンを示していく中で、適切な位置というものが自ずと見えてくると考えます。

町民の皆様には、多くの混乱を招いてしまったことをお詫びし、皆様と「新しいまちづくり」を描いて行きたいと考えております。

問 7割を依存財源に頼らざるを得ない当町の財政シミュレーションと健全化財政へ向けて基金の固定化を図るべきと考えるが。

答 10年間を目安としたシミュレーションを作成しております。庁舎に係る建設費として25億円を見込んでおりますが、コストの縮減に努めます。

令和6年度までを「財政健全化重点期間」と定め、物価高や予期しない事態に備え財政の健全化を図って参ります。

**福祉の町、
あたたかいまちづくりを
土地利用とあわせ、様々な手
法を検討して参ります**

問 令和6年度に購入予定である南幹線県有地に、障がい者、福祉施設の設置場所として誘致をしてはどうか。

答 県有地等の効果的な利活用を検討し、町単独では困難な施設整備については、県営や近隣町村と広域的に取り組むなど、有効な手段と手法を検討して参ります。



学ぶ より良い広報紙 づくりのために

県町村議会議長会 広報研修会



6月27日、福島市のとうほう・みんなの文化センターで開催された福島県町村議会議長会広報研修会に参加しました。

一般財団法人自治体広報広聴研究所代表理事で広報アドバイザーの金井茂樹氏を講師に、伝わる議会報の企画と編集についてお聞きし、読者を意識した紙面の作り方や、企画の作り方など、改めて学ぶことが出来ました。

より伝わる広報紙づくりに役立てて参ります。



議会を傍聴してみませんか？

手続きは簡単！議場前にある受付簿に名前を書くだけです。

ぜひ傍聴にお越しください。

※傍聴の際はマスクの着用をお願いすることがあります。



【令和5年第3回定例会日程（予定）】

8月	31日(木)	招 集 日
	4日(月)・5日(火)	一 般 質 問
9月	8日(金)・11日(月)	決算特別委員会
	13日(水)	最 終 日

※日程は変更になる場合があります。